

大相撲、長野県出身関取列伝

上原 昇 (2組)

大相撲3月場所が、3月13日から大阪で始まる。やはり話題の中心は新大関御嶽海ということになるだろう。御嶽海に関しては、本HP(22年2月16日)で紹介したが、続編として長野県出身力士について調べてみた。

御嶽海は大関昇進後のインタビューで、「長野県では雷電以来の227年ぶりの大関ですが」と向けられると、「ちょっと雲の上の存在すぎるので、自分がその後というのは、荷が重い」と答えていた。

長野県出身で昭和以降の幕内入幕力士は以下の6人と非常に少ない。(年齢順)

- ・槍ヶ岳・・・最高位前頭9枚目、明治29年、更級郡生まれ
- ・高登・・・最高位関脇、明治41年、下伊那郡生まれ、雷電の再来と期待されたが怪我に泣いた。御嶽海の三役昇進は平成28年で長野県では高登以来84年ぶり。
- ・信州山・・・最高位前頭14枚目、大正7年、上諏訪町生まれ
- ・若嵐・・・最高位前頭18枚目、大正13年、北佐久郡岩村田町生まれ
- ・大昇・・・最高位前頭筆頭、大正14年、軽井沢町生まれ
- ・大鷲・・・最高位前頭3枚目、昭和21年、北佐久郡志賀村生まれで存命。
大鷲は我々と同世代で何となく覚えているが、他の力士は名前も聞いたことが無かった。

なお、関取(幕内、十両)にはなれなかったが、上田出身の力士を見つけた。四股名が「太郎山」、明治34年生まれで伊勢ヶ浜部屋に所属していたとのこと。

最後に、「雷電」に関するエピソード(逸話)を紹介したい。

1. 雷電の体格は? 公称では6尺5寸(197cm)、45貫(169kg)といわれているが、大相撲出身の作家、小島貞二氏が雷電の手形や足袋などを確認した結果、6尺3寸(191cm)、40貫(150kg)と推定している。御嶽海が公称180cm、174kgだから、体重はともかく、当時としては大変な大男であったことは間違いない。
2. 雷電が大関になったのは、偶然にも御嶽海と同じ29歳の時で、それから45歳まで現役を続けたというのも、生涯で負けたのが10回だけというのも驚く。これだけ強かったのに、何故、横綱になれず大関止まりだったかも疑問ではある。ものの本などを見ると「当時も谷風、小野川など横綱を名乗っていた力士はいたが、横綱は恒久的な制度として確立されていなかった」。「雷電を抱えていた雲州(松江)松平家と、相撲家元の吉田司家を有する肥後(熊本)細川家との大名間の意地の張り合いに巻き込まれた」とある。
3. 雷電の本名は関太郎吉である。雷電から数えて8代目の関家当主は、東御市在住の関賢治さんという方だ。さて、どこかで聞いた名前だ。そうだ、同期の関賢治

君（2組）と同姓同名、年齢も73で同じとのこと。同期の関君はこのことを既に知っているらしい。

これから15日間、同期の好角家の皆さんと御嶽海の奮戦を期待しながら、TV観戦を楽しみたい。

（2022年3月12日記）

以上



大鷲の化粧まわし姿